



## 『季節感』を指導につなげる

園長 足立 祐子

爽やかな季節になりました。先日の親子遠足では、舎人公園のネモフィラや様々な花畑の花を見て、「春が来たんだな」という気持ちになりました。芝生の上を駆けまわる子供たちの笑顔も素晴らしく、都会の中にありながら、春を感じられることを嬉しく思いました。

幼稚園では、季節ごとの行事や製作への取り組み、歌や絵本読み聞かせでも『季節感』を大切にしています。「四季」があることの素晴らしさは、今すぐには分からなくても、大人になったときに実感することでしょう。幼児期は感覚的に物事を受け止めていきますから、その瞬間の経験を大事にしていきたいですね。

### 「こいのぼりの製作」

3歳児雪組は、初めての個人製作です。うろこのシールをいろいろと貼って作りました。持って動くことが楽しく、砂場にも、お手洗いにでも持っていこうとしています。「今日作ったものは、今日持って帰りたい！」プレ保育の時には作ったらすぐ持って帰っていたので当然の気持ちですね。たくさん作ったり、毎日持ち帰って翌日持って来たりしています。持ち帰るまでに、汚れたり切れたりしてしまうかもしれませんが、幼稚園で物を作るということは、ただ飾るためではなく「使って遊ぶ」ことに意味があります。ですから、よれよれのこいのぼりでも「いっぱい遊んだのね！」「素敵なものが出来たのね」と声を掛けていただければと思います。

4歳児花組は、3歳児の時に比べたらかなり技能も向上しました。はさみで尻尾の部分を持ち、うろこをのりにつけます。のりを丁寧に貼ることが指導の一つのポイントです。そのあと目を重ねて貼ったり、先端の金の飾りをつけたりして、かなり本物らしくなりました。扱いも丁寧になってきて、そっとうまう様子も見られ、そこも成長の姿だと感じます。

5歳児月組は、初めての共同製作です。グループの友達と相談すること、協力することが指導のねらいになります。こいのぼりの色や素材を相談して選び、うろこの模様を考えました。目も様々な大きさの円を切り重ねて貼るなど、難しいことにも一生懸命取り組んでいました。友達との協力的な活動は、今後、意図的に取り入れていきます。最初は上手い出来ないことも多く、「一緒にやりたくない」「自分の考えを聞いてくれない」などの葛藤もあると思いますが、積み重ねていくことで成長しますので、見守っていただけたらと思います。

### 「自然・科学の芽」

4, 5歳児の誕生会の機会に、今年度は「動物・虫の親子」についての話をしていきます。季節感の薄れる現代でも、園庭の植え込みやプランターにはたくさんの虫たちが生息しています。理科離れが進んでいると言われるこの時代、いちばん身近に出会える自然が、「虫」でもあります。お家の方が「気持ち悪い」「触っちゃだめ」と言わない限り子どもたちは自然に目を向け、こわごわ手をのばすものです。どの虫が危険で、どの虫が危険でないかということも経験で学んでいきます。今年度は虫ばかりでなく身近な動物も交え、幼虫・さなぎ・成虫の変化や、卵で生まれる・赤ちゃんで生まれるということ、親子で姿が違うこと、などに気付く機会を作っていききたいと思います。

